



日本SPF豚協会だより

Report of JAPAN SPF Swine Association 2007.4 第27号



提◆言

鶏インフルエンザに学ぶ

日本SPF豚協会理事

伊藤忠飼料㈱ 飼料営業本部営業チーム長

三枝 泰裕

新年を迎え、未だ松飾りが取れるか取れないかという時期、関係者の警戒をよそに、高病原性鶏インフルエンザが宮崎県清武町で確認されました。その後3週間の間に岡山県を含め3農場での感染が確認され、特定家畜伝染病防疫指針に基づき、発生農場及び周辺地域に対して種々の措置が講ぜられました。幸いにも制限地域内での清浄性が順次確認され種々の制限は解除、表向き域内での生産活動は再開されました。しかし、今回も過去の事例同様、感染経路が特定されるには至りませんでした。

今回の発生で特徴的だったのは移動制限地域が養鶏の密集地域であったことはもとより、食鶏処理センターが含まれていたことです。食鳥産業は高度にインテグレーション化が進み、川上から川下までの垂直統合の中で、水道の蛇口にあたる処理センターが操業停止となることはインテグレーションの崩壊につながりかねない重大事で、その経済的損失は重篤な額に及びます。現在の制度では、生産者への補償はあっても処理センターを対象とするものは何もないからです。

これは養豚業界において、対岸の火事とはいえ、過去を振り返ると昭和55年に豚コレラ、平成12年には口蹄疫が発生しており、当時は業界を震撼させました。両者とも、家畜伝染病予防法に基づく特定家畜伝染病防疫指針の対象疾病に指定されており、取り扱い先の高病原性鶏インフルエンザと同等です。養豚業界は食鳥産業ほど垂直結合は進んでいませんが、2サイト方式での子豚移動、肉豚のと畜場確保等において、グループ化が進んでないが故の混乱が予想されます。また発生農場での殺処分は相応の補償金が支払われます

が、そのライフサイクルの長さから、再建の道は厳しいものとなります。したがって、有事に対する域内での相互協力、危機管理体制等についての検討、協議がなされるべきではないでしょうか。行政への働きかけは当然のこととして、まずは自らの業界を自らの知恵と結束力をもって守る仕組み作りが必要だと思えます。

日本SPF豚協会は現在、認定農場182農場、飼養母豚数は73,000頭強となっており、これは全体の8%を占めます。平成6年に「SPF豚農場認定制度」を立ち上げ、その制度に拠る農場管理基準は生産性向上並びに防疫体制の強化に大きく貢献し、認定農場以外でもその手法は広く応用されています。

先述の特定家畜伝染病の感染経路は特定されておらず、野鳥、野生動物が媒介する、はたまた空気感染するとまでいわれると、これは不可抗力に近く防ぎようがありません。しかし、農場運営においては想定できる危険因子を農場内に「持ち込まない」「持ちこませない」という設備（ハード面）と管理者の意識（ソフト面）が重要で、認定制度における衛生基準の基本です。

豚肉は、差額関税制度の枠の中とはいえ昭和46年から輸入自由化され、安価な輸入ポークに対抗するため国内ではローカルを含めおよそ170ものブランドポークが差別化による生き残りをかけて生産されています。市場原理が支配する社会では当然取り組まねばならないテーマであることは議論を待ちません。しかし、一方において有事における危機管理体制を各生産現場から立ち上げ、地域内で行政を合わせて確立させることが、50%近くまで落ち込んだ豚肉の国内自給率を目標の70%へ引き上げる施策の一つであると思えます。

SPF種豚と認定農場の分布

(2007年3月末現在)

表1. 認定農場の分布

飼養母豚数	北海道	東北	関東	甲信越	東海近畿	中四国	九州	合計	母豚総頭数
99以下	2	0	9	1	0	6	2	20	1,473
100～299	8	10	31	6	1	3	13	72	13,844
300～599	3	7	8	2	1	9	7	37	15,954
600～999	2	10	5	1	0	1	5	24	19,052
1,000以上	0	4	4	0	0	1	8	17	22,705
計	15	31	57	10	2	20	35	170	73,028
肉豚肥育専門農場数	0	1	2	1	0	0	8	12	
合計	15	32	59	11	2	20	43	182	73,028

母豚総頭数	4,482	19,018	17,315	3,019	813	7,007	21,374	73,028
-------	-------	--------	--------	-------	-----	-------	--------	--------

肥育用素豚生産部門と肉豚肥育専門部門で別々に認定申請する農場が増加したため、肉豚肥育専門農場分布数を別途集計

表2. 認定農場数および飼養母豚数の推移

年度	2002年度		2003年度		2004年度		2005年度		2006年度	
	農場数	飼養母豚数								
北海道	11	3,079	13	3,873	15	4,141	14	4,035	15	4,482
東北	27	17,951	29	18,628	30	18,170	31	18,949	31	19,018
関東	54	14,168	59	15,321	59	16,682	57	16,522	57	17,315
甲信越	12	3,284	11	3,023	12	3,111	10	2,937	10	3,019
東海近畿	4	1,670	4	1,610	2	983	2	815	2	813
中四国	21	6,267	21	6,489	21	7,124	21	7,245	20	7,007
九州	32	14,986	29	13,545	33	17,025	33	19,867	35	21,374
肉豚肥育専門農場							11		12	
全国	161	61,405	166	62,489	172	67,236	179	70,370	182	73,028

SPF豚認定農場は182（GP、GGP農場18、肉豚肥育専門農場12含む）、飼養母豚数は7万3,000頭を超え、昨年度より戸数、母豚数とも増加した。わが国全体の飼養戸数減少に歯止めがかからず、飼養頭数も減少傾向にある中で、SPF豚農場は戸数、飼養頭数ともに増加傾向にある。規模別、地域別においては特に大きな変化はみられないが、九州地区の飼養頭数の増加が目立つ。

全国の飼養母豚総数90.1万頭(平成18年8月現在)に占める認定農場産SPF豚の割合は約8.1%と、昨年に比べ0.4ポイント上昇した。

CM認定農場の生産成績

(2006年度)

表1 一貫経営

	件数 135	母豚数	農場回転率		農場飼料要求率		出荷頭数/母豚		A薬品費/肉豚		生産指数
			実績	指数	実績	指数	実績	指数	実績	指数	
基準値			1.70	15.00	3.19	25.00	21.35	40.00	286.00	20.00	100.00
A	34	396	1.93	17.02	3.06	26.02	22.75	42.63	67.51	35.28	120.95
B	34	333	1.68	14.79	3.42	23.23	20.53	38.46	137.86	30.86	108.01
C	34	408	1.64	14.19	3.42	23.23	19.52	36.58	248.27	22.64	96.94
D	33	398	1.55	13.64	3.36	23.65	18.34	36.03	387.87	12.87	84.53
最高成績			2.05	18.09	2.82	27.90	27.51	51.54	0.00	40.00	137.53
最低成績			1.54	13.59	3.51	22.49	16.42	30.76	444.16	8.94	75.78
平均値		384	1.70	15.00	3.27	24.35	20.35	38.12	205.00	25.66	103.15

表2 肥育用素豚生産専門農場

	件数 17	母豚数	分娩回数/年		離乳頭数/母豚		出荷子豚数/母豚		A薬品費/子豚		生産指数
			実績	指数	実績	指数	実績	指数	実績	指数	
基準値			2.30	20.00	22.53	20.00	21.43	40.00	282	20.00	100.00
A	4	958	2.50	21.70	23.47	20.84	22.67	42.31	74.22	34.74	119.58
B	4	1,001	2.28	19.85	21.02	18.66	19.97	37.27	112.13	32.05	107.83
C	4	427	2.35	20.43	22.42	19.90	20.07	37.46	208.88	27.06	102.98
D	5	360	2.09	18.14	19.26	17.09	16.57	30.92	193.41	26.28	92.44
最高成績			2.48	21.57	25.25	22.41	24.79	46.27	37.00	37.38	127.63
最低成績			1.87	16.26	15.74	13.97	15.22	28.41	156.00	28.94	87.58
平均値		667	2.29	19.92	21.41	19.00	19.63	36.63	149.88	29.37	104.93

表3. 肉豚肥育専門農場

	件数 10	出荷数	農場飼料要求率		出荷率		A薬品費/肉豚		生産指数
			実績	指数	実績	指数	実績	指数	
基準値			3.30	55.00	97.50	25.00	125	20.00	100.00
A	3	9,115	3.28	55.42	98.70	36.95	63.72	28.81	122.17
B	3	8,015	3.31	54.89	97.62	26.23	164.92	13.61	94.74
C	3	7,493	3.52	51.28	96.29	12.93	125.49	19.92	84.13
D	1	28,607	2.82	63.00	95.01	0.10	220.00	4.00	67.90
最高成績			2.90	61.67	99.30	43.00	12.43	38.01	142.68
最低成績			2.82	63.00	95.01	0.10	220.00	4.00	67.90
平均値		9,541	3.30	55.03	96.88	18.75	129.57	19.27	93.05

表4. 肉豚1頭当たりA薬品費使用

一貫経営

肥育用素豚生産専門農場

肉豚肥育専門農場

薬品費/肉豚	農場数	平均金額	薬品費/肉豚	農場数	平均金額	薬品費/肉豚	農場数	平均金額
100円未満	39	50.19	100円未満	5	52.88	100円未満	3	52.49
100円～199円	36	143.66	100円～199円	7	151.17	100円～199円	6	153.03
200円～299円	18	252.26	200円～299円	5	245.07	200円～299円	1	220.00
300円～399円	17	346.91	300円～399円			300円～399円		
400円～499円	23	431.47	400円～499円			400円～499円		
農場数	133		農場数	17		農場数	10	
最高		0.00	最高		37.00	最高		12.43
最低		467.98	最低		288.00	最低		220.00
上位25%の平均		43.81	上位25%の平均		47.18	上位25%の平均		52.49

アミノグリコシド系抗生物質

農林水産省動物医薬品検査所 浅井 鉄夫

アミノグリコシド系抗生物質は、各種のアミノ糖を構成成分とする塩基性抗生物質の総称です。最初に発見されたアミノグリコシド系抗生物質は、ストレプトマイシンで、1944年にWaksmanらによって放線菌が産生する有用抗生物質を系統的に探索する過程で発見されました。その後、フラジオマイシンやカナマイシンなどの抗生物質が発見されました。

現在、豚用抗菌性物質製剤としては、ストレプトマイシン（ジヒドロストレプトマイシン）、ゲンタマイシン、カナマイシン、フラジオマイシンを有効成分とする製剤が承認されています。駆虫作用のあるハイグロマシシン（2004年 飼料添加物の指定取消）やデストマイシンもこの系統に分類されます。

また、βラクタム薬と併用すると相乗効果が見られるためストレプトマイシン又はカナマイシンとペニシリンとの合剤が市販されています。この系統の薬剤は、一般的に安定性が極めて高く、水溶液の状態でも抗菌力の低下はほとんどみられません。中には、カナマイシンのようにオートクレーブなどの高温高压滅菌によっても失活しないものもあります。しかし、強酸やアルカリ下で効力が低下し、また、臓器移行性にバラつきが見られるため、使用に当たっては細菌による病巣部位を考慮して使用する必要があります。

豚で承認されている抗菌剤

成分名	投与方法	休業期間*	適応症**
ストレプトマイシン	注射	30日	レプトスピラ病、肺炎
	飲水	4日	細菌性下痢症
カナマイシン	注射	30日	肺炎、細菌性下痢症
	鼻腔内噴霧	3日	萎縮性鼻炎
ゲンタマイシン	飲水	17日	子豚の細菌性下痢症
	強制経口投与	14日	子豚の細菌性下痢症
フラジオマイシン	飼料添加	10日	細菌性下痢症

* 休業期間(使用禁止期間)は、各製剤の用法・用量で使用された成績に基づいて設定されています。
 **有効菌種は、添付文書などで確認してください。その場合、起原菌のアミノグリコシド系薬剤に対する感受性についての最新情報を参考してください。

作用機序は、細菌のリボソーム30Sに結合してタンパク質合成を阻害することで、殺菌的に働きます。本来は、抗菌スペクトルが広く、グラム陽性・陰性菌に強い抗菌活性を示しました。しかし、テトラサイクリン系抗生物質と同様に、各種細菌で薬剤耐性菌の出現が報告されています。

治療に当たっては、目的とする細菌の薬剤感受性を確認して投与することが必要です。アミノグリコシド系抗生物質は、腸管からの吸収性は不良ですが、注射による吸収は良好で、体液・組織液に良好に分布します。そのため、経口剤は、腸管感染症の治療のみに利用されます。

副作用としては、腎機能障害があげられます。人では、第8脳神経障害（平衡感覚障害、聴力障害）が知られていますが、家畜に対しては明らかにはされていません。また、この系統薬剤は、注射剤の休業期間が比較的長く設定されています。

薬剤耐性

最も重要な耐性機構は、細菌の不活化酵素の産生とリボソームの変異です。不活化酵素の種類によって、不活化できる種類が異なるため、アミノグリコシド系抗生物質の間で必ずしも交差耐性を示すわけではありません。大腸菌やサルモネラでは、ストレプトマイシンに対する耐性は広く見られますが、カナマイシンに対する耐性は中程度で、ゲンタマイシンに対する耐性はほとんど見られません。

豚のスス病やレンサ球菌症の起原菌においても、ストレプトマイシンやカナマイシンに対する耐性が見られています。治療に当たっては、目的とする細菌の薬剤感受性を確認して投与することが必要です。

熊本県農業コンクールで新人王を受賞

(有)七城SPFファーム 石渕 大和
熊本県菊池市

我が家は母豚150頭規模の一貫経営農場です。農場内の作業は両親と私の3人でしています。

2月8日、平成18年度（第47回）農業コンクール大会が開催されました。このコンクールは熊本県の農業や農村社会の振興・発展に積極的に取り組み、豊かで住みよい地域づくりに貢献している優秀な農業経営者・組織などを4部門に分けて表彰する歴史ある大会です。

私は、経営・生産技術の改善に意欲的に取り組む青年農業者（31歳以下）を対象とする新人王部門において、最高賞にあたる農林水産大臣賞をいただくことができました。

私が両親の養豚業を継いでから10年になります。動機は一言でいうと、ひとり息子の使命感です。父は強要したことはないといつもいいますが、知らず知らずの間にマインドコントロールされていたようです。しかし、小さい頃からみてきた畜産農家の大変さ、特に

母の負担の大きさに考えさせられ、自分なりの養豚経営を目指したいという目標から、就農前に国内と海外

（デンマークで1年間）で研修させてもらうのを条件に、家を継ぐことを決意しました。

就農後はさまざまな新しい技術を導入しました。父の30年ものの「コンピュータ」と闘い続け、認められ、経営状況は年々向上してきました。

また、従兄と協力し、菊池市内に豚肉専門居酒屋「おいしい」をオープンさせました。熊本SPF豚肉のアンテナショップとして、消費者により広く知られることにつながればと思います。7年前から地元小学生のサッカー指導も行っていますが、夏合宿では毎年我が家の豚肉を使ったカツカレーを振る舞います。

今度の名誉ある受賞を励みに、規模拡大に挑戦し、雇用型養豚経営を実現させたいと思っています。



診療所通い、再開

J A全農畜産生産部 富川 明男

相変わらずの休日出勤。やっと切り上げ家路につく。地下鉄の駅に急ぎ足で向かう途中、ふと目をよぎった女性「んっ、どこかで見たような」ピンクのワンピースに白いパンプス。足取りも軽やか。先に回りこんでもう一度確認するわけにもいかず、そのまま後を追うような格好で改札口へと歩いていった。

その彼女、改札口前の自動券売機で立ち止まる。横顔がチラリ。その瞬間、はっきりと思い出した。「あっ、診療所の受付のお姉さんだ！」

東京転勤後のある日、急に首筋が痛くて回らなくなった。そこで、職場近くの整形外科を訪れた。診察の結果、病名は頸椎ヘルニア。医者は「年をとったせいだ」と少々不愉快なことをいうが、それだけではあるまい。いまだ慣れない東京生活とハードな仕事が大きな原因だ。治療は牽引を気長に続けることだというの

で、以来この診療所に通い続けた。

仕事の合間をみてちょくちょく通ったが、良くなるきざしは一向にないし、かといって悪くなるわけでもない。ではなぜ続けたのか。実は、この診療所の受付のお姉さん。軽くブローしたショートヘアにきりっとした顔立ち。いつしか彼女に会うのが楽しみになっていた。当然、職場の同僚は、このささやかな私の楽しみを知らない。

そんな、密かに思っていた彼女にまったく予想しない時・所で遭遇したのだ。一瞬、後をつけようという考えが頭をよぎったが、さすがに何とか思いとどまる。やがて、彼女は、私とは反対方向の地下鉄に乗車した。

こんなことがあってから丸5年が経過。その後、私は地方に転勤。最近再び東京に戻ってきた。戻ってきたとたん、さっそく休日出勤。ようやく切り上げ家路につく。まさか地下鉄の駅で、くだんの彼女にまた遭遇することはないだろう。

ただ、首の痛みは相変わらず。少し落ち着いたたら、あの診療所に行ってみよう。

紹介●SPFのお店①

肉のヤマザキ

神奈川県横浜市

<http://air.jstep.jp/nikunoyamazaki/>

東急東横線の大蔵山駅から徒歩10分、大曽根商店街の中段に「肉のヤマザキ」のお店があります。

社長の山崎進一さんと奥さんの照子さんがこの地で店を始めたのは昭和40年、お二人ともまだ20代のはじめ、一からのスタートでした。以来42年、確かな品揃えで地元の人に愛され続けてきました。後を継いだ2人の息子さんご夫婦と家族6人、お店を切り盛りされています。

卸業も営むヤマザキでは枝肉仕入、息子さんと3人がかりで骨抜き作業を毎日行っています。「肉の良さあしは骨抜きの時にわかるんです。楽をしてはいけない」と社長。

SPFポークとの出会いは、今から20年ほど前、横浜食肉市場で。千葉の林商店肉豚出荷組合産をたまたま買って見たところ、きびしい社長のおめがねにかなう肉だったそうです。

お店のお客さんの評判も上々で、店頭の豚肉は林SPFのみ。小さな子どもを持つお母さんが「子どもが他の豚肉だと食べない」と買いにくるそうです。



ヤマザキの皆さん（左から2人目が社長の進一さん）

SPFポークに何の不満もないという社長。協会への要望をお聞きしたところ「肉屋でさえSPF豚を知らない人もいる。せっかくきびしい基準にもとづいて生産しているのだから、販促資材にしても肉の写真ではなく、SPF養豚のこだわりの生産行程がわかるポスターのようなものがほしい。もっと知名度が上がるのではないのでしょうか」とアドバイスいただきました。



●協会からのお知らせ●

●宮崎で4回目の地域研修会を開催しました

18年度の事業として全国各地で開催した生産者地域研修会。最後に飾った中四国・九州ブロックでは去る3月15日、宮崎県・青島パームビーチホテルを会場に行われました。参加者は70名と前3回を大きく上回り、農場業務に携わる方々にも大勢ご参加いただくことができました。4回の開催にあたり、関係各位には大変お世話になりました。今年度も引き続き開催の予定ですので、今後ともご協力のほどお願いいたします。

●SPFポーク販促リーフレットVol.2が完成

SPFポーク販売促進用リーフレット（A6判、見開

き4ページ）の第2弾がこのほど完成いたしました。また、第1弾も増刷しております。会員の皆さんに無料でお送りしますので、事務局までお申し込み下さい。

●総会を6月に開催します

今年度の協会総会は6月14日、東京都千代田区の「KKRホテル東京」にて開催の予定です。

<訂正>

先号（26号）掲載「提言」で、岩村祥吉・研究会会長の所属が間違っておりました。正しくは動物衛生研究所企画管理部研究調整役です。お詫びして訂正いたします。

●SPF豚研究会から●

●研究会が5月25日に開催されます

第17回日本SPF豚研究会が5月25日（金）午後1時より、東京大学・山上会館にて開催されます。詳細は日本SPF豚研究会事務局（伊藤忠飼料(株)研究所内）ま

でお問い合わせ下さい。

TEL：0287-64-3652

FAX：0287-63-8384

e-mail：kobyashi.kaz@itochu-f.co.jp

春のたけのこ 豚バラトルネード焼き

レシピ提供：いのこ家社長・林 勝

今回のレシピは季節感たっぷりの一品です。たけのこのあくぬきがちょっとめんどろですが、あとはカンタン。この時期ならではの組み合わせ。ひと手間かけて旬を味わってみてはいかがでしょうか。

材料（4人前）

SPF豚バラ薄切り肉 160g
たけのこ 1本（穂先部分）
米ぬか 適宜
鷹の爪 適宜
焼き鳥のタレ 適宜
塩 少々
こしょう 少々
うま味調味料 少々
付け合わせの野菜 お好みで



つくり方

- ① たけのこは米ぬかと鷹の爪を入れて火にかけ40分ほど煮ます。
- ② そのまま一晩おいてあく抜きをします。
- ③ たけのこの皮をむき、8等分に切り、一つずつ豚バラ肉をぐるぐる巻きつけます。
- ④ 塩、こしょう、うま味調味料をふってオーブントースタで焼き上げます。
- ⑤ 7分目くらいまで焼き上がったなら、市販の焼き鳥のタレを塗り、さっとあぶります。
- ⑥ お皿に盛り付け、お好みの野菜を添えてできあがりです。

【林シェフのひとこと】

たけのこは水煮でもかまいません。

豚バラ肉はあまり焼き過ぎないことがポイントです。

●認定情報●

●平成19年度認定農場

[3月認定] (有効期間：平成19年3月9日から20年3月31日まで)

北海道・JA全農種豚開発センター、秋田県・(有)十和田湖高原ファーム、宮城県・サンエス丸森農場、茨城県・(有)中村畜産、千葉県・飯田武雄養豚場、石毛章俊養豚場、石上博養豚場、平野英夫SPF豚農場、鈴木良雄養豚場、飯田文雄養豚場、(有)ピギージョイ、(株)シムコ館山事業所、(有)伊藤養豚飯岡農場、(有)楠木ピッグファーム、(有)ブライトピッグ千葉東庄農場、(有)ブライトピッグ千葉第一農場、長野県・(農)エスピーエフこがねや第二農場、全農長野SPF繁殖センター、JA大北白馬アルプス農場、富山県・(株)シムコ八尾育種改

良センター、島根県・奥出雲ファーム(有)、山口県・日本ハイポー(株)山口農場、愛媛県・松田養豚、JAえひめアイツパクス(株)天貢農場、熊本県・全農畜産サービス(株)西日本原種豚場、新古閑養豚農事組合法人、(有)七城SPFファーム、(有)ピッグファーム陳、(有)やまとんファーム、天草梅肉ポーク(株)、宮崎県・宮崎高原ファーム(株)、鹿児島県・そお畜産(株)岩崎農場、そお畜産(株)志布志子豚供給センター、そお畜産(株)松山子豚育成センター、鹿児島島いずみ畜産(株)出水農場、鹿児島島いずみ畜産(株)阿久根農場 (以上36農場)

※次回認定委員会は平成19年6月8日(金)の予定



(有)中村畜産
中村一夫さん
 ●茨城県行方市

中村畜産の農場は、東京都心から約70キロ、茨城県の東南部に位置し、東に北浦、西に霞ヶ浦がある行方市にあります。

母豚は330頭、社長の一夫さん(47歳)は奥さんの由美子さんと従業員3名の5名で農場を運営されています。

養豚歴は、現在飼料配送を担当するお父さんの美明さんの代から数えて40年以上になります。

はじめは子豚市場から子豚を仕入れて肥育する肥育専門農場でしたが、周囲のすすめもあり平成9年から一貫生産農場に切り替えました。

その際、とにかく母豚が健康体であれば、あとは全部母豚が健康な子豚を育ててくれるはず、という考え方から、迷わずSPF豚の導入を決めたそうです。

肉豚は茨城県中央食肉公社に100%出荷しています。肉豚に給与する飼料に納豆菌、海藻、ウコン、乳酸菌などを配合するなど肉質には特にこだわり「^{びめいとん}美明豚」の銘柄で販売しています。

美明豚は高い評価を受けていて、毎年7月に開催される茨城県枝肉共励会において、7年間で6回の農林水産大臣賞受賞(現在4年連続で受賞中)という輝かしい成績からもそれが証明されています。

そんな一夫さんに「趣味は?」お聞きすると即「豚飼い」という答が返ってきました。由美子さんにお聞きしたところによれば、昔はオートバイが好きで仲間とツーリングに出かけていたそうです。今でもハーレ



ーダビットソンのワンオーナーですが、最近はほとんど乗る機会もなく、たまに芝生の上のボールを追いかけているのがせいぜいとか。筆者が出荷日以外に連絡もせずお邪魔しても不在が過去にほとんどないことからして、やはり今は豚ひとすじ…。

由美子さんは、子豚の生時・離乳時の全頭体重測定のほか、経理事務やデータ入力・管理も担当されています。ガーデニングがご趣味です。

お父さんの美明さんは今年74歳、毎日自家用大型バルク車を運転されています。忙しいときは片道1時間弱の距離で1日4回の配送をこなすほど、元気一杯です。

お子さんは中学生の息子さんが2人。部活動は野球部とサッカー部、それぞれ体育会系でがんばっていますが、時間があれば農場外での作業を手伝ってくれる親孝行な一面も。

一夫さんにも息子さんたちを当てにしているところがあるようです。「いい後継者がいていいですね」というと「センスがなければ継がせても仕方がない」などとおっしゃいますが、さて本音は…。

(株)サンエスブリーディング 佐野 公春

編集後記

養豚を取り巻くきびしい環境の中で農場数、飼養頭数ともに維持、拡大を果たしているSPF豚認定農場。さらなる飛躍のためには多くの課題もありますが、一つずつ克服していきたいと思えます。今号から認定農場産SPF豚肉を扱っている小売店、飲食店などを紹介する「SPFのお店」という企画を始めました。SPFポーク普及に真摯に取り組んでいただいている店舗を毎号取材、掲載するものです。取材先は会員の皆さんの情報が頼りです。ぜひご紹介下さい。ご協力をお願いいたします。(K)



日本SPF豚協会認定農場産シール

このマークは
 有限責任中間法人

日本SPF豚協会の

登録商標です

日本SPF豚協会だより

第27号 2007年4月1日発行(季刊)
 発行 有限責任中間法人 日本SPF豚協会
 〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-8-2
 TEL.03-5835-5375 FAX.03-5835-5376
 e-mail : j.spf.a@nifty.com
 http://www.j-spf.com/
 発行人 赤池 洋二
 編集人 林 哲